

人口の急増とエイズの蔓延

今なお続く内戦と難民の増大

急速な都市化と雇用の悪化

低い識字率と女性の地位

これら難題にいかに取り組むかが

二十一世紀アフリカのゆくえを決める

早瀬保子 著

アフリカの人口と開発

アジアを見る眼



早瀬保子 著

アフリカの人口と開発

アジア経済研究所

著者紹介

はやせ やすこ
早瀬保子

1966年 津田塾大学学芸学部数学科卒業
 同年 アジア経済研究所入所
 1986～88年 海外派遣員として吉林大学人口研究所
 (中国) 客員研究員
 1994～95年 海外調査員としてロンドン大学公衆衛生熱帯医学部人口研究センター訪問研究員
 1995～96年 海外調査員としてジンバブエ大学開発研究所客員研究員
 現在 日本貿易振興会アジア経済研究所開発研修室主任研究員

(著書論文) 『中国の人口変動』(編著)アジア経済研究所, 1992年。
Fertility in the Developing Countries (共編), Institute of Developing Economies, 1994.
 “Factors on Polygamy in Sub-Saharan Africa: Findings based on the Demographic and Health Surveys,” *The Developing Economies*, XXXV-3, (共著) 1997.
 “Rural/Urban Migrations in Zimbabwe in 1982-92: Selectivity by Gender, Place of Birth, and Educational Attainment” (共著)(日本人口学会編『人口学研究』第20号) 古今書院, 1997年。

アフリカの人口と開発

アジアを見る眼97

1999年 3月31日発行©

無断転載を禁ず

著者 早瀬保子

日本貿易振興会アジア経済研究所

発行所 東京都新宿区市谷本村町42 電話 東京(3353)4231(代)
 研究支援部 電話 東京(3353)1640
 FAX 東京(3357)0435

印刷所 株式会社 スギタ

落丁, 乱丁はお取替致します

ISBN 4-258-05097-0 C1233

アフリカの人口と開発

早瀬保子 著

人口の急増とエイズの蔓延
今なお続く内戦と難民の増大
急速な都市化と雇用の悪化
低い識字率と女性の地位
これら難題にいかに取り組むかが
二十一世紀アフリカのゆくえを決める

アジアを見る眼



IDE-JETRO

ISBN4-258-05097-0 C1233

目次

はじめに

第1章 アフリカの人口とその特徴 1

1 アフリカの多様性 2

2 人口急増とその背景 7

3 各国の人口動向に対する認識と政策的対応 12

4 若い人口構成 16

第2章 世界一高い出生率とその背景 25

1 出生率の推移 26

第3章 死亡率低下とその要因 47

- 2 出生率の社会経済的要因 32
- 3 不妊症 42
- 4 子供の性別選好と理想子供数 43
- 5 各国の出生率動向に対する認識と政策的対応 45

- 1 死亡率の推移と内戦・エイズの影響 48
- 2 保健医療の改善 54
- 3 乳児死亡率の低下 57
- 4 子供の栄養障害、乳児死亡とその要因 61
- 5 東西アフリカで高い妊産婦死亡率 64
- 6 主要死因 67

第4章 アフリカ諸国の教育水準 71

- 1 アフリカにおける教育の発展 72

- 2 女性の低い教育水準 76
- 3 ジンバブエの教育の発展 81

第5章 アフリカ諸国の労働力 85

- 1 労働力人口の調査方式 86
- 2 男女の労働力率の差 89
- 3 子供の就業 94
- 4 労働力人口急増と高い失業率 97
- 5 就業構造と従業上の地位 100
- 6 インフォーマル・セクター 103

第6章 アフリカのジェンダー 107

- 1 女性のエンパワーメントと人口問題 109
- 2 一夫多妻婚 115
- 3 ジンバブエの婚姻と相続 120

- 4 女性世帯主の特徴 124
- 5 女子割礼 129

第7章 人口政策と家族計画 133

- 1 アフリカの人口政策と家族計画 135
- 2 アフリカ主要国の人口政策の推移と家族計画の現状 140
- 3 アフリカ諸国の避妊実行率と主な避妊手段 149
- 4 アンメット・ニーズ 162
- 5 リプロダクティブ・ヘルス／ライツと女性 165

第8章 深刻化の一途をたどるアフリカのエイズ 169

- 1 HIV／エイズとは 170
- 2 HIV／エイズの急増 173
- 3 アフリカ諸国のエイズ 178
- 4 エイズの人口、社会への影響 182

5	各国政府のエイズ対策への取組みとその問題	185
---	----------------------	-----

第9章 都市化と国内人口移動 189

1	都市化の進展	190
2	都市の定義	197
3	都市人口の急増と農村人口の逡減	199
4	人口移動のタイプとパターン	204

第10章 国際人口移動と難民 209

1	国際人口移動と開発	210
2	国際人口移動統計	213
3	アフリカの国際人口移動	215
4	激増するアフリカの難民	223

第11章 アフリカの将来人口予測——むすびにかえて 229

1 アフリカ諸国の人口データ 230

2 国連の将来人口推計の方法 233

3 アフリカの将来人口 235

おわりに 241

付 表 243

参考資料 249

図表目次

図 1	世界の地域別人口増加率	9
図 2	アフリカの地域別人口増加率	9
図 3	人口ピラミッド（一九八六〜九〇年）	21
図 4	世界の主要地域の合計出生率	27
図 5	アフリカの地域別合計出生率	28
図 6	ケニアとジンバブエの合計出生率	31
図 7	ケニアとジンバブエの避妊実行率	31
図 8	アフリカ女性の初婚年齢（一九八六〜九四年）	34
図 9	世界の地域別平均寿命	49
図 10	アフリカの地域別平均寿命	51
図 11	アフリカ主要国の平均寿命	51
図 12	世界の地域別乳児死亡率	59

図 13	アフリカ主要国の乳幼児死亡率	60
図 14	教育水準別就学指数（一九九五年）	74
図 15	ジンバブエの識字率（一九九二年）	83
図 16	アフリカ女性の労働力率（一九九〇～九四年、十五～四九歳）	91
図 17	アフリカ男性の年齢別労働力率	93
図 18	アフリカ女性の年齢別労働力率	93
図 19	男女年齢別失業率（一九九〇年）	98
図 20	アフリカ諸国女性の一夫多妻婚の割合（一九八六～九二年）	119
図 21	アフリカの女性世帯主率（一九八六～九四年）	125
図 22	世界の主要地域の避妊実行率	150
図 23	アフリカ諸国の有配偶女性の避妊実行率（一九八六～九四年）	152
図 24	ジンバブエのエイズ患者報告件数（一九八七～九四年）	174
図 25	サハラ以南アフリカ諸国のエイズ・ウイルス感染率（一九九七年）	180
図 26	世界の都市化（一九五〇～二〇二五年）	191
図 27	アフリカの都市化（一九五〇～二〇二五年）	193
図 28	アフリカからオーストラリア、カナダ、アメリカへの国際人口移動	219
図 29	難民およびその他 UNHCR 援助対象者数（地域別）	227
図 30	世界の地域別人口割合（一九五〇～二〇五〇年）	236

- 図 31 アフリカの将来人口（一九九五～二〇五〇年） 238
 図 32 エジプトとナイジェリアの将来人口（一九九五年、二〇五〇年） 239
 表 1 世界の地域別人口と構成比 8
 表 2 アフリカ諸国の人口増加率とそれに関する政府の認識と対応（一九九六年） 14
 表 3 アフリカ諸国の年齢構成比と性比（一九八六～九五年） 17
 表 4 世界の地域別粗出生率 27
 表 5 サハラ以南アフリカの社会的要因別合計出生率（十五～四四歳の女性の TFR）、人口保健調査（一九八五～九二年） 37
 表 6 サハラ以南アフリカの経済的要因別有配偶出生率、人口保健調査（一九八五～九二年） 38
 表 7 結婚している男女の理想子供数 44
 表 8 世界の地域別粗死亡率 49
 表 9 世界の地域別平均寿命の男女格差 52
 表 10 父親の所得と母親の教育水準別プレストン・トラッセル相対死亡指数（ナイジェリア） 63
 表 11 多産と死亡の関係（一九九八年） 66
 表 12 アフリカの主要死因別構成比 69
 表 13 政府の教育支出 72
 表 14 十五歳以上アフリカ女性の教育水準別分布（一九九〇～九四年） 78

表 15	アフリカ主要国の労働力人口と就業構造	90
表 16	ジンバブエとエジプトの従業上の地位別労働力人口構成比	102
表 17	アフリカの女性世帯主の特徴（一九九〇～九四年）	126
表 18	アフリカ諸国の有配偶女性の居住地、教育水準別の避妊実行率（一九八六～九四年）	154
表 19	アフリカ諸国の有配偶女性の避妊手段（一九八六～九四年）	158
表 20	成人のエイズ・ウイルス感染者の地域別性比（一九九二年一月）	178
表 21	世界の主要地域とアフリカの都市化	194
表 22	首位都市への人口集中と増加率（一九九五年）	200
表 23	農村人口と年平均増加率	202
表 24	世界の地域別国際人口移動数	216
表 25	ヨーロッパ諸国に居住するアフリカ人	218
表 26	サハラ以南アフリカにおける難民数（一九九六年十二月三十一日現在）	225
表 27	国連推計による将来人口の年齢構成（中位推計値）	240
付表 1	アフリカの国・地域別人口（一九九八年）	244
付表 2	アフリカ諸国の成人識字率	246

地中海から太平洋まで、この広くアジアと呼ばれる地帯には幾十かの国がある。その大部分は第二次世界大戦以後、古い植民地体制から脱して新興の独立国となったものである。世界の人口の半ば以上のものがここに存在する。これらの新興国はそれぞれの立場に立って、建国創業の仕事に力をつくしている。

その業は果たして障害なく着々と進んでおるか。だれもがこれに対して頭をかしげるであろう。そしてだれもがアジアは「流動的」であるという。

流動的とは何であるか。また何でないか。いくたの混みいった事態のなかを、一本の金の線が生々發展的に縫っているのも流動的である。経済は着々と成長し、政治は一つの体制のなかで徐々に整備されているような場合がそれである。

アジア諸国の大部分については、事態はこのように簡単ではない。もちろん、経済の場面には大きな発展・成長の芽生えはある。しかし、他面においてそれを抑制するものが力づよい。またおよそ発展や成長を考える場合、在来流行の理解によるパターンを以てするのが果たして正しいか、との疑問もでてくる。さらに政治体制については、イデオロギーの対立、複合民族国家における特殊なナショナリズムに伴う民族や種族間の闘争があつて、政治的安定はなかなか期すべくもない。独立国家の幼年期に伴う政治的、行政的未熟もまた考えられるべき大きな原因である。

こういう次第で、アジアが流動的であるとは、一つの混沌を意味するものといえようか。そしてその上に立っていかなる経済・社会・政治の体制が整いだされるのであろうか。——この意味で二〇世紀後半のアジアは世界における「問題」、いな最も大きな「問題」である。

アジア経済研究所は、まさにこの「問題」の理解に向かつて、ひたすら前進をつづけている。われわれの期するところは、まさにそれぞれの国の現実に即した精確な知識を供しよう、そしてこの大きな「問題」について静かなサードビスをいたそうとするに尽きる。設立以来すでに七十年余り、専らそういう道を歩んできたし、今後もそれに変わりはしない。このシリーズは、多くの研究や調査の報告書、現地調査を土台として、アジアについての解説書・教養書たることを目標とするものである。

一九六六年三月

アジア経済研究所 東畑 精 一